

小・中学校における環境教育の現状 I

荒木 光¹⁾, 榊原 典子¹⁾, 越前 美香¹⁾

Environmental Education in Elementary School and Junior High School I

Hikaru ARAKI, Noriko SAKAKIBARA and Mika ECHIZEN

抄録：全国の小学校及び中学校における環境教育の現状を把握するためにアンケート調査を実施した結果、1,500通にもよる回答が得られた。

これらの回答を基に、本報では、環境教育の現状を各学校の校種や規模あるいは校区の特色など地域性の観点から検討した。

I. は じ め に

環境教育実践センター発足にあたり、設立の趣旨にのっとり研究教育を推進するには、全国の環境教育の現状を基礎データとしておさえておく必要があると考えた。そのため、全国の教育関係者にアンケート調査を依頼することにした。当初は、幼稚園・小学校・中学校・高等学校・大学・都道府県教育委員会・同環境行政担当部局に対してアンケート調査を実施する予定にした。しかし、予算的な事情と時間的な事情のため、全国の小学校及び中学校のみを対象にアンケート調査を実施することになった。

予算の制約のため、アンケート依頼先は5500校にした。京都府のみ悉皆調査にし、残る数を全国およそ7分の1の小中学校に依頼をした。

アンケート依頼文および内容は、資料1、資料2のとおりである。

資料1 (別添)

資料2 (別添)

回収は平成5年6月くらいにはほぼ止まったが、およそ1500通の回収のため、集計に意外と手間取り、残念ながら未だに全部の集計分析は終わっていない。

II. 集 計 結 果

*回収率 全国地域別の回収率は、表1のとおりである。回答数を学校規模別に見たものが表2である。

1) 京都教育大学

表1 地域別回収率（回収数／依頼数）

地 域	小学校	中学校
北海道地方	25	28
東北地方	30	36
関東地方	25	24
中部地方	28	37
近畿地方	20	31
中国地方	29	43
四国地方	22	37
九州地方	29	33
全 国	28	36

単位：％

表2 回答数の学校規模別構成比

規 模	小 学 校	中 学 校
小 規 模	50.4	50.5
中 規 模	33.7	33.0
大 規 模	15.9	16.5
計	100.0	100.0

単位：％

小規模 児童・生徒数300人未満

中規模 児童・生徒数300～800人

大規模 児童・生徒数800人以上

*設問Ⅰ 『学習指導要領に環境保全についての記述がありますが、貴校における環境教育に関する授業の現状は如何でしょうか』の回答を小中学校別にみたものが表3である。

表3 授業の現状について

回 答	小 学 校	中 学 校
学校として関連教科で計画的に進めている	17.1％	15.8％
環境教育を意識して展開している教科もある	42.1	39.1
むしろ各教科の目標達成に主眼をおいている	28.1	31.0
そ の 他	4.1	5.2
無 記 入	8.6	8.9
計	100.0	100.0

*設問Ⅲ 『貴校の特別活動において、環境教育にかかわる活動（行事・クラブ活動など）がありましたら、その内容をお聞かせ下さい。』の回答を小中学校別にみたものが表4である。

表4 特別活動における将来の予定

回 答	小 学 校	中 学 校
不 明	67.7％	63.3％
予 定 あ り	27.4	30.5
予 定 な し	4.9	6.2
計	100.0	100.0

*設問Ⅳ 『文部省より環境教育指導資料が出されましたが、それについてのお考えを一つ選び○をつけて下さい』の回答を小中学校別にみたものが表5である。

表 5 文部省環境教育指導資料についての回答

回 答	小 学 校	中 学 校
かなり参考になる	36.9%	27.3%
いくらか参考になる	45.2	47.7
あまり参考にならない	3.3	5.7
そ の 他	6.4	8.6
不 明	8.2	10.7
計	100.0	100.0

年度末の、教育現場としては非常に忙しい時期に回答を依頼するというアンケート調査であったので、回収率がこの種のものとしては低いものであった。これは、環境教育に対する教育現場の関心度とも考えられる。

また、小学校では、生活科や社会科などの地域に密接した教科があり、環境教育への興味も高校進学や困難な生徒指導を抱える中学校より高いであろうと予想した。しかしながら、回収率でみる限り、この予想とは異なる結果が出ている。

しかしながら、教科の授業としてどれだけ環境教育を意識しているかをみると（設問Ⅰ）予想どおり小学校の方が積極的に環境教育に取り組んでいるようである。これは、教科としては小学校の方が中学校よりも環境教育を取り入れ易いということの反映であると考えられる。

小学校より中学校の方が環境教育に関心を持っている（回収率が高い）が、色々な問題や事情のために教科としては取り組めないということを意味しているのではなかろうか。設問Ⅵで環境教育実施上の障害について聞いているが、残念ながら今回この項のまとめが終わっていない。引き続きまとめをしていくので、今後この点を絡めて環境教育への関心度などを考えていきたい。

Ⅲ. 規模別、校区特色別にみた現状

設問Ⅰにおいて、環境に関する授業の現状を尋ねた。それを学校の規模別、校区の特色別にまとめたものが以下の表である。

(1) 商業地域

表 6 - 1 商業地域（小学校）

授 業 の 現 状	規模小	規模中	規模大	計
学校として関連教科で	%	%	%	%
計画的に進めている	44.9	15.9	17.4	18.6
環境教育を意識して展開している教科もある	31.5	45.1	50.0	45.7
むしろ各教科の目標達成に主眼をおいている	23.6	36.6	28.3	32.9
そ の 他	0.0	2.4	2.2	2.1
無 回 答	0.0	0.0	2.1	0.7

表 6 - 2 商業地域（中学校）

規模小	規模中	規模大	計
%	%	%	%
9.1	11.8	23.1	14.8
36.4	47.1	53.8	47.7
54.5	25.5	19.2	27.3
0.0	9.8	0.0	5.7
0.0	5.8	3.9	4.5

この地域は、一般的に人口密度が高く、進学熱も高く塾教育に熱心な家庭が多い。また、人工的なものに囲まれているので、なかなか学校として環境教育に取り組みにくい地域といえる。大規模校となるときめ細かく問題に対処できにくく、抱える課題も多く、それも困難なものが多い。その結果、環境教育に取り組んでいる学校は少ないのではないかと予想された。しかし、結果からも分かるとおり、忙しいなかでも、6-7割の学校が、意識的に環境教育を取り上げていることが明らかになった。

そのなかで特に、小規模の小学校では、4割もの学校が全体で環境教育に取り組んでいるのだが、このほとんどは、商業地域と農業地域の混合地域にある学校である場合が多い。自然も残っており、環境に対して親しみやすい地域であると考えられる。

また、小学校より中学校の方が高校受験などのために環境教育に対して消極的になりそうだが、教科の授業では、全体的に中学校の方が何らかの形で、環境教育を取り入れていることが分かった。そのなかで、小規模の中学校では約50%が環境教育よりむしろ教科の目標達成に主眼をおいていることは、少ない教員数で各教科を教えなければならない忙しさの反映であろう。

(2) 農業地域

表7-1 農業地域（小学校）

授業の現状	規模小	規模中	規模大	計
学校として関連教科で計画的に進めている	% 14.3	% 14.8	% 13.2	% 14.4
環境教育を意識して展開している教科もある	49.6	43.8	55.3	47.8
むしろ各教科の目標達成に主眼をおいている	30.8	34.4	26.3	31.8
その他	5.3	4.7	2.6	4.7
無回答	0.0	2.3	2.6	1.3

表7-2 農業地域（中学校）

規模小	規模中	規模大	計
% 14.1	% 14.7	% 12.1	% 14.0
37.5	42.7	45.5	41.3
39.1	37.3	39.4	38.4
7.8	2.7	0.0	4.1
1.5	2.6	3.0	2.2

この地域は、少なくとも田畑が存在し、自然に囲まれている地域である。一般的には、環境教育を扱いやすい地域といえる。しかし、自然がある程度残っているが故に意識しにくいいためか、あまり商業地域と変わらない結果である。しかし、この地域では、小学校の方が中学校より環境教育を取り入れている。まわりに自然があると小学校では環境教育を取り扱い易いのかかもしれない。

(3) 漁業地域

表8-1 漁業地域（小学校）

授業の現状	規模小	規模中	規模大	計
学校として関連教科で計画的に進めている	% 10.5	% 22.2	% 0.0	% 11.8
環境教育を意識して展開している教科もある	52.6	22.2	66.7	47.1
むしろ各教科の目標達成に主眼をおいている	36.8	33.3	0.0	29.4
その他	0.0	11.1	0.0	2.9
無回答	0.1	11.2	33.3	8.8

表8-2 漁業地域（中学校）

規模小	規模中	規模大	計
% 21.4	% 0.0	% 12.5	% 12.9
28.6	66.7	50.0	45.1
42.9	22.2	25.0	32.3
7.1	11.1	12.5	9.7
0.0	0.0	0.0	0.0

この地域の対象校が65校であり、それをさらに規模別に分けたので、大まかな結果になっている。この地域は海や湖に近いところであるから、水質の悪化や浮遊ゴミの増加など、生活により密着した環境の変化を目にすることができる。そういった面から、環境教育を扱いやすい地域の一つであると思われたが、商業地域や農業地域とあまり変わらない結果がでている。これは、農業地域にせよ、漁業地域にせよ、純粋にその産業だけの地域はほとんどなく、商業地域や、住宅地域などの混合地域が多くなってきたことが、商業地域、農業地域、漁業地域、住宅地域の結果を似かよわせている原因の一つであろう。

(4) 林業地域

表 9 - 1 林業地域（小学校）

授 業 の 現 状	規模小	規模中	規模大	計
学校として関連教科で	%	%	%	%
計画的に進めている	15.8	33.3	25.0	19.2
環境教育を意識して展				
開している教科もある	57.9	0.0	0.0	42.3
むしろ各教科の目標達				
成に主眼をおいている	26.3	0.0	0.0	19.2
そ の 他	0.0	0.0	0.0	0.0
無 回 答	0.0	66.7	75.0	19.3

表 9 - 2 林業地域（中学校）

規模小	規模中	規模大	計
%	%	%	%
13.3	16.7	0.0	13.6
53.4	83.3	100.0	63.6
33.3	0.0	0.0	0.0
0.0	0.0	0.0	0.0
0.0	0.0	0.0	22.8

この地域は他の地域とは違い、混合地域であったとしても、農業地域や文化観光地域との混合地域である場合がほとんどである。その為少し変わった結果がでているのではなかろうかと予想した。しかし、対象校が48校と少ないので、大まかな数字になってしまい、現状はつかみにくい。対象校の約70%が小規模校である。そしてそのうちの、小学校では73%が環境教育を扱っているというのは、自然に囲まれた各地域のなかでは一番であろう。

(5) 工業地域

表10-1 工業地域（小学校）

授 業 の 現 状	規模小	規模中	規模大	計
学校として関連教科で	%	%	%	%
計画的に進めている	33.3	4.8	25.0	16.3
環境教育を意識して展				
開している教科もある	50.0	42.9	31.3	39.5
むしろ各教科の目標達				
成に主眼をおいている	6.7	42.9	31.3	34.9
そ の 他	0.0	0.0	0.0	4.7
無 回 答	10.0	9.4	12.4	4.6

表10-2 工業地帯（中学校）

規模小	規模中	規模大	計
%	%	%	%
50.0	8.3	27.8	18.2
50.0	39.2	38.9	34.1
0.0	50.0	33.3	40.9
0.0	0.0	0.0	0.0
0.0	2.5	0.0	6.8

この地域も他の特色も持つ混合地域の学校が多い。そのなかでも目だつのは、小規模の小学校の83%が環境教育を扱っていることだ。これは対象校が6校しかいないため全体で見ると他の地域と

あまり差はない。工場からでる悪臭や有害物質に敏感な地域であるはずだが、関心はあってもなかなか教科に持って入りにくい学校の現状が現れている。

(6) 住宅地域

表11-1 住宅地域（小学校）

授 業 の 現 状	規模小	規模中	規模大	計
学校として関連教科で 計画的に進めている	% 37.0	% 14.1	% 16.5	% 16.7
環境教育を意識して展 開している教科もある	48.1	46.1	49.5	47.4
むしろ各教科の目標達 成に主眼をおいている	14.8	35.9	27.5	31.6
そ の 他	0.0	2.4	3.7	2.6
無 回 答	0.1	1.5	2.8	1.7

表11-2 住宅地域（中学校）

規模小	規模中	規模大	計
% 11.1	% 12.8	% 20.0	% 15.0
55.6	41.3	40.0	41.6
22.2	38.5	36.4	37.0
11.1	5.5	3.6	5.2
0.0	1.9	0.0	1.2

この住宅地域は回答のあった学校の約3分の1が該当する地域である。環境教育を扱っている割合は低めだが、他の地域とよく似た結果がでている。これだけ、地域別にも、規模別にも、小中学校別にも大きな差がでない原因の一つに、教科の内容がきっちり決められており、他の活動においても、学校経営においても文部省や各教育委員会からの要求が全国一律の多さででており、現場は全国津々浦々似たような忙しさがある。いろいろな課題がこの世の中にはたくさん存在するが、全て、環境のなかで起こる問題である。それを人々がわが身と感じて対処するにはまだまだ時間がかかる。大きな問題である。

(7) 文化観光地域

表12-1 文化観光地域（小学校）

授 業 の 現 状	規模小	規模中	規模大	計
学校として関連教科で 計画的に進めている	% 9.5	% 19.4	% 23.1	% 16.9
環境教育を意識して展 開している教科もある	47.6	48.4	46.2	47.7
むしろ各教科の目標達 成に主眼をおいている	42.9	25.8	7.7	27.7
そ の 他	0.0	0.0	0.0	1.5
無 回 答	0.0	6.4	23.0	6.2

表12-2 文化観光地域（中学校）

規模小	規模中	規模大	計
% 22.2	% 13.6	% 16.7	% 16.3
22.2	45.5	58.3	44.2
22.2	22.7	8.3	18.6
22.2	9.1	16.7	14.0
11.2	9.1	0.0	6.9

この地域は他の地域からの人がその環境を目的としてたくさん訪れる地域である。そのために環境に対しての関心が高いことが中学校全体の「むしろ各教科の目標達成を重視している」割合の低さに現れている。しかし、小規模の小学校が中規模以上の学校より環境教育を教科に取り入れにくいとしていることが、いくら関心があっても・・・という現場の苦労を物語っている。

(8) その他地域

表13-1 その他地域（小学校）

授 業 の 現 状	規模小	規模中	規模大	計
学校として関連教科で	%	%	%	%
計画的に進めている	0.0	33.3	50.0	18.2
環境教育を意識して展				
開している教科もある	50.0	33.3	0.0	36.4
むしろ各教科の目標達				
成に主眼をおいている	33.3	33.3	0.0	27.3
そ の 他	16.7	0.0	0.0	9.1
無 回 答	0.0	0.0	50.0	9.0

表13-2 その他地域（中学校）

規模小	規模中	規模大	計
%	%	%	%
0.0	—	66.7	33.3
66.7	—	33.3	50.0
33.3	—	0.0	16.7
0.0	—	0.0	0.0
0.0	—	0.0	0.0

この地域は上記地域のどれにも当てはまらない、山村地域や、文化学研都市などが含まれている。対象校は17校なので大まかな結果となり、中規模の中学校に該当する学校はなかった。また、小規模校は離島・山村地域で、中規模以上は研究指定校が多かった。

この地域では、少し特殊であるためか、中学校では約8割もの学校が環境教育を取り入れている。しかし、小学校では他の地域とよく似た結果である。体を動かして学ぶ小学生には、離島や山村のような恵まれた地域や、整備された指定都市では教えるにくいこともあるだろう。

(注) 規模：小=300人未満 中=300～800人 大=800人以上

Ⅳ. ま と め

まだ集計途中なのでアンケートのまとめをいえる段階ではない。しかし、ここでは、つぎのようなことがいえる。

環境教育は、机上の理論を教えるものではない。生活に密着したもので、あらゆる場面で出て来るものである。そう考えると、環境教育には、地域性が大きく現れてもよいと考えられる。しかしながら設問Ⅰの結果を見る限り、そう顕著な地域性は出なかった。その原因として2つ考えられる。

1つは、日本中どこも同じ様な環境問題を抱えているから環境教育に差異が余りでなかったと考えることである。2つめの原因として考えられるのは、教えられている教科が持っている問題である。環境教育は特別の教科をたてて教えられるのではなく、既存の教科の中で適宜教えられるということである。それぞれの教科の内容が細かく決められ、弾力的運用が余り効かないとなると、たとえ全ての教科で適宜指導されるといってもどんな教科でも教えることが困難になって来る。教科の内容が硬直化してしまっているということになる。

何が原因かは他の設問についても同様に地域性を加味した分析をおこない、その結果を見ないと即断は出来ない。引続き集計分析を続けたい。なお、アンケート作成に際しては下記の先生方のご協力を賜った。深く感謝申し上げます。

藤田哲雄先生、川崎英一先生、矢野喜夫先生、遠藤浩先生、田渕春三先生。

なお、本アンケートは、平成4年度京都教育大学内特別研究経費の助成を受けて実施されたものである。ここにそのことを明記し、関係各位に厚く御礼申し上げます。

資料1

平成5年3月15日

学校長 殿

京都教育大学教育学部

附属環境教育実践センター

センター長 田淵 春三

拝啓

いよいよ春めいてきた今日この頃ですが、ますますご清栄のことと拝察申し上げます。

さて、本学におきましては、全国の国立大学にさがけまして、『環境教育実践センター』が設立され、昨年4月より活動を始めております。今日まで、施設の整備や公開講座や種々の研究活動の実践などを行って参りましたが、全国の義務教育現場における環境教育の実情を、今後の研究活動の基礎データとして把握しておく必要を痛感しました。

つきましては、同封のようなアンケートを作成し、全国5,500の小・中学校に送らせて頂きました。貴校におかれましても、年度末でご多忙とは存じますが、用紙にご記入いただき、同封の封筒でご返送いただきますようお願いいたします。なにとぞご協力賜りますよう宜しくお願い申し上げます。

なお、調査結果の概略をお送り致したく存じますので貴校名を記入して頂くようになっておりますが、アンケートの内容に関しましては、当然の事ながら、個々の学校名を公表したり、研究目的以外に利用致すことは絶対にございませので、ご理解賜りますようお願い申し上げます。

返送は、3月31日頃迄に宜しくお願い申し上げます。

末筆ながら、貴職並びに貴校のますますのご発展を心よりお祈り申し上げます。

敬 具

資料 2

環境教育に関するアンケート

京都教育大学教育学部附属環境教育実践センター

※学校名 _____

※学校所在地 _____

電話 () _____

※差し支えなければ代表回答者の役職名をご記入下さい。 _____

※回答記入年月日 平成 5 年 月 日

※次の事について、お聞かせ下さい

1. 貴校の所在する市町村の人口は幾らぐらいですか。およそ _____ 千人くらい

2. 貴校の校区の特色を表すものに○を付けて下さい（複数可）

・商業地域 ・農業地域 ・漁業地域 ・林業地域 ・工業地域 ・住宅地域
・文化観光地域 ・その他 ()

3. 児童（生徒）数をお聞かせ下さい。 全学年合計 _____ 名

内訳 第 1 学年 _____ 名 第 2 学年 _____ 名 第 3 学年 _____ 名

第 4 学年 _____ 名 第 5 学年 _____ 名 第 6 学年 _____ 名

I. 学習指導要領に環境保全についての記述がありますが、貴校における環境教育に関する授業の現状は如何でしょうか。主なものを 1 つ選んで○をおつけ下さい。

1. 学校として関連教科で環境教育を計画的に進めている。

2. 環境教育を意識して展開している授業もある。

3. むしろ各教科の目標達成に主眼をおいている。

4. その他 _____

II. I の 1. 2 を○した方は、どの教科の何学年のどのような内容においてなされているかお聞かせ下さい。I の 3. 4 を○した方は、将来の予定をお聞かせ下さい。

Ⅲ. 貴校の特別活動において、環境教育にかかわる活動（行事・クラブ活動など）がありましたら、その内容をお聞かせ下さい。

1. 現在の状況をお聞かせ下さい。

ア. 学校行事

イ. 学年行事

ウ. 学級行事

エ. 児童（生徒）会行事

オ. クラブ活動

カ. その他

2. 将来これらの活動に関して計画があればお聞かせ下さい。

Ⅳ. 文部省より『環境教育指導資料（中・高編平成3年3月）（小学校編平成4年3月）』が出されましたが、それについてのお考えを一つ選び○をつけて下さい。

1. かなり参考になる（なりそうである）。

2. いくらか参考になる（なりそうである）。

3. あまり参考にならない（なりそうにない）。

※この『環境教育指導資料』について、何かご意見がありましたらお聞かせ下さい。

V. 文部省編の『環境教育指導資料』以外で、環境教育を実施される際に利用されている指導資料・手引などがありましたら、具体的にお教え下さい。

1. 教育委員会よりのもの。

2. 民間団体よりのもの。

3. 大学等研究機関よりのもの。

4. その他

VI. 学校教育において環境教育を進めるうえで障害となっていることがあればお教え下さい。

1. 実施形態に関して

2. 指導内容に関して

3. 児童・生徒の実態に関して

4. 地域・学校の事情に関して

5. その他

Ⅶ. 学校教育における環境教育として下記事項に関するような内容が考えられます。これらの内、小学校教育（中学校の場合は中学校教育で）で重点的に取り扱う方がよいものに◎印、取り上げた方がよいものに、○印、取り上げる必要が無いとおもわれるものに×印を語頭におつけ下さい。

（個人的なご意見で結構です）

- ・ 野外体験 ・ 自然観察 ・ 栽培 ・ 飼育 ・ 騒音 ・ 振動 ・ 悪臭 ・ 水質汚濁
- ・ 大気汚染 ・ 地盤沈下 ・ 土壌汚染 ・ 海洋汚染 ・ ゴミ処理
- ・ フロンガスによるオゾン層の破壊 ・ 熱帯林の減少
- ・ 2酸化炭素濃度の上昇による地球気候の変動問題 ・ 砂漠化の進展
- ・ 野性生物種の減少 ・ 食品添加物 ・ 農薬 ・ ポストハーベスト ・ 台所用洗剤
- ・ 合成洗剤 ・ 有機農業 ・ 化学肥料 ・ 緑化 ・ 公園の美化清掃
- ・ ヒートアイランド ・ 熱汚染 ・ 住環境 ・ 生活施設の整備
- ・ うるおいのある町づくり ・ 集合住宅の住環境 ・ 相隣苦情 ・ 道路 ・ 消費のあり方
- ・ 歴史的環境の保護
- ・ その他

Ⅸ. 環境教育を進めるに当たって、子供の発達段階を考えた場合、次のそれぞれで主としてどういう内容（活動）を重点とするのがよいか、お聞かせ下さい。（個人的なお考えでも結構です）

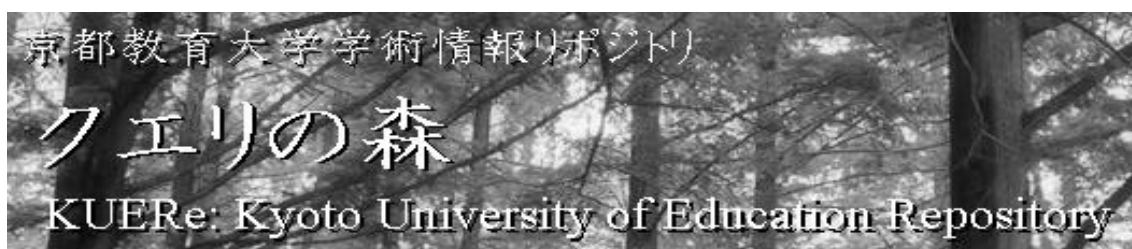
1. 小学校低学年

2. 小学校中学年

3. 小学校高学年

4. 中学校

Ⅹ. 貴校校区内で、環境にかかわる問題があれば具体的にお聞かせ下さい。



この文献は、国立情報学研究所において電子化されたものを、本学でテキスト加工したものです。

